

三重大学の 3R 運動

三重大学では、「レジ袋削減」「放置自転車対策」「古紙再生利用」の 3R 運動を行い、大きな成果を出しています。

1) レジ袋削減 (Reduce)

レジ袋削減の対策の背景

三重大学生の多くが利用する三重大学生協のレジ袋を削減することは環境に対する意識、行動を改革する身近な取り組みと考えました。

また、資源の有効活用、再生・環境負荷の低減も実現できると考え、エコバッグの作成やレジ袋有料化を開始しました。

レジ袋に対する意識調査

平成 18 年 6 月に三重大学生の環境意識を調査するためにアンケートを行いました。約 30% の学生がレジ袋を必要、約 30% がレジ袋を不要と考え、約 30% がどちらでもいいと思っているという結果になりました。レジ袋の削減によって二酸化炭素が削減でき、学生の環境に対する環境マインド向上に繋がります。

三重大学生協でのレジ袋使用状況調査

平成 19 年 5 月、6 月、7 月に三重大学生協翠陵店におけるレジ袋の使用枚数の調査を行いました。調査の結果、1 年間では約 20 万枚のレジ袋が使用されていることがわかりました。レジ袋削減量は、石油換算で約 3,660L、二酸化炭素換算で約 9.5t の発生に相当することがわかりました。三重大学でのレジ袋削減は環境負荷削減に多大な効果をもたらします。

三重大学エコバッグデザイン決定

平成 19 年 6 月にエコバッグのデザインを学生、教職員から募集し、約 120 点の応募の中から環境 ISO 推進会議や環境 ISO 学生委員会、生協、教職員の意見を経て最終決定しました。また、エコバッグの形は 10 月に、「三重大学と環境をワンポイントで表現し、誰でも持てるようなデザイン」とし、持ち運びに便利なよう、小さく折りたたみ、弁当箱も容易に収納できる形に決定しました。



三重大学エコバッグ

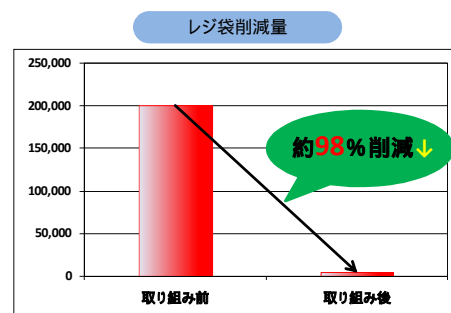
エコバッグ配布後のレジ袋使用量調査

平成 19 年 12 月 1 日から全学生・教職員に、エコバッグを配布し、平成 20 年 1 月 1 日から三重大学生協でのレジ袋の有料化を開始、レジ袋削減について調査した結果、エコバッグ

配布・レジ袋有料化の実施で、年間のレジ袋使用量を約 19 万枚削減することに成功し、削減率は約 98% になりました。石油の約 3,500L 削減、二酸化炭素約 9.5t に相当する量の削減を達成することが出来ました。

レジ袋削減活動・エコバッグ普及の成果

三重大学と三重大学生協がレジ袋の削減に向けて積極的に取り組んだことによって、レジ袋を約 98% 削減することが出来ました。また、三重大学エコバッグがマイバッグとして学外でも使用されているなど、学生の環境に対する意識が向上していると実感できました。今後も、三重大学と三重大学生協が協力して活動することで、環境先進大学としての三重大学らしさを出し、地域に向けてアピールしていくことから環境意識の向上を実践して行きたいと考えています。



年間レジ袋使用量 (枚) の変化

2) 放置自転車対策 (Reuse)

放置自転車対策の背景

三重大学には多くの自転車が放置されており、景観の悪化、緊急経路の障害などが問題となっています。学内の放置自転車を撤去することで、これらの問題解決を目指しています。それと同時に、修理可能な自転車を再使用することで資源の有効利用の促進を目指して活動を行っています。

放置自転車の調査

大学内にある放置自転車の台数の調査のために、平成 19 年 12 月から学内の放置自転車を回収する告知文を全学部に掲示し、翌年 1 月に回収を知らせる黄色いタグを学内の自転車に貼り付けました。その一ヵ月後に黄色いタグがはずされていない自転車を回収したところ、426 台の放置自転車が確認されました。この時点では盗難自転車が含まれている可能性があったため、一時保管場所に集めてその確認を行いました。

放置自転車の点検・整備

回収された放置自転車から盗難自転車を除く 423 台のうち、タイヤのゆがみやブレーキなどの点検を行い、再使用できる自転車 140 台を選別し、それらの自転車の整備・安全点検を行いました。また、修理が難しいと判断した自転車は、業者に引き取ってもらいました。

自転車譲渡会

三重大学生の多くは、広大なキャンパスを移動するために自転車を利用しています。そこで、放置自転車の抑制と自転車の再使用を促すため、修理した自転車のうち 42 台を新入生に譲渡しをすることに決めました。新入生を対象に自転車譲渡しの告知を行い、平成 20 年 4 月に三翠ホール前で希望のあった学生 108 名から抽選で 42 名を選び、自転車の譲渡しを行いました。譲渡しの際に、誓約書と防犯登録に記入をしてもらい、責任をもって自転車を利用・管理をするようお願いしました。

入学したての新入生が、再使用自転車の利用を通じて三重大大学の環境への取り組みを知る機会になりました。

学内共用自転車

平成 20 年 4 月に三重大大学の職員・学生が、学内の移動に自由に利用することができる学内共用自転車を 48 台設置しました。学内共用自転車の利用を促進することにより、安全性の確保、景観の改善への期待が高まりました。



自転車譲渡会(2008.4.23) 学内共用自転車(2008.7.4)

3)古紙再生利用(Recycle)

古紙利用の背景

三重大大学では古紙を資源ごみとして数カ月ごとに回収し処分していました。また、各研究室・部署では保管・管理が効率化されていませんでした。そこで、平成 19 年 12 月に環境 ISO 学生委員会では古紙の回収によるトイレトペーパー化をはかり、再生利用を促進、新たな古紙の回収方法を検討しました。

新しい古紙回収方法

平成 20 年 4 月からの新しい古紙の循環サイクルを確立するため 2 月に財務部と環境 ISO 学生委員会が協議した結果、附属病院を含む広いキャンパスの回収の手段として、学内の 3 カ所に古紙回収コンテナを常設することで効率よく集約され

ることとなりました。

また、回収した古紙を業者に譲り渡すことで、製紙メーカーで再生され排出量に応じたトイレトペーパーになって三重大大学に還元されるというシステムが確立しました。

また、排出した古紙がトイレトペーパーとして還元されることで、古紙の循環サイクルが形として現れるようになりました。

このことにより、継続的に学内の古紙の再利用促進への意識向上につながると期待しています。

包装紙・コンテナのデザイン

トイレトペーパー包装紙と古紙回収コンテナのデザインを環境 ISO 学生委員会が担当することとなりました。包装紙には三重大大学の環境 ISO 活動のシンボル「まもる」を使用し、各学部の環境研究概要も記載しました。また、古紙回収コンテナでは、三重大大学のシンボルカラーである緑を基調にして、「古紙回収 BOX」と大きく書き、一目で認識できるようなデザインにしました。

古紙の回収量

平成 20 年 4 月に学内 3 カ所に古紙回収コンテナが設置されたことにより古紙がトイレトペーパーに還元されるシステムが確立されました。各学部、附属病院に協力を得るために搬入方法をポスター掲示や、大学内のトイレトペーパーホルダーへ古紙回収を啓発するシールを貼るなど、新しい古紙回収方法の周知活動を行いました。その結果、平成 20 年 4、5 月では、6,000kg 弱の回収量だったのに対して、6 月には約 2 倍の 12,000kg 以上の古紙を回収しました。5 月には再生されたトイレトペーパー約 1,300 個（学内で 1 ヶ月間に使用される量の 20%分）が初めて納入されました。



古紙回収コンテナ(2008.7.4)



還元されたトイレトペーパー(2008.5.9)